

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		11,822	t-CO <sub>2</sub>
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		11,822

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス 総 排 出 量	10,129	t-CO <sub>2</sub>	9,825	t-CO <sub>2</sub>	11,097	t-CO <sub>2</sub>	11,490	t-CO <sub>2</sub>	11,822	t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 9.6	%	▲ 13.4	%	▲ 16.7	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの 排 出 量	0.1119	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	0.1085	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	0.1226	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	0.1269	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	0.1304	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 9.6	%	▲ 13.4	%	▲ 16.5	%
原単位あたりの みなし排出量						t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>		t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>		t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>
削減率（対 基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

新型コロナウイルスの影響で利用者数が低下した令和3年度が基準年度となっているため、コロナ禍後の宿泊者数の増加により、温室効果ガス総排出量の削減目標は未達成に終わった。更なる施策で排出量の低減を図っていく。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理/エネルギー使用量等の把握及び管理。	使用設備の点検・修繕履歴を固定資産データと紐づけて管理することで、適切な機器更新時期を把握する。	継続する	2025年度中の新規グループウェアの更新に合わせ、修繕履歴の管理方法を確立する。
省エネルギー・省資源の推進/冷暖房	客室窓の二重サッシ化による断熱化の強化。 中間期等は積極的に外気の導入を図り、空調機の運転時間を削減する。	継続する	全客室の二重サッシ化完了。
省エネルギー・省資源の推進/照明	レストラン・宴会場の白熱灯・蛍光灯照明器具・調光装置のLED化。 器具・ランプの清掃を定期的実施する。	継続する	バックエリアのLED化を継続実施。
省エネルギー・省資源の推進/OA機器	退社時や外出時は、可能な限りパソコンや事務用機器の電源を切り待機電力を削減する。	継続する	2025年度中にノートPCの個人貸与を実施し、ペーパーレス化を促進する。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
		なし

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーレス化や事務用品のリユースなどによる廃棄物の排出抑制。</li> <li>・「環境物品等の調達に関する基本方針」（グリーン購入法）に準じた商品の購入。</li> <li>・客室アメニティ類のサステナブル認証製品の優先使用。</li> <li>・連泊者へのエコ清掃を奨励し、リネン洗濯時の環境負担の低減に努める。</li> </ul>
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>夜間のエレベーター稼働台数制限。 社用車の利用制限。</p>
---------------------------------------